

## Greenpeace Energy の広報担当者

Christoph Rasch 氏による

2017年3月11日福島6周年ベルリンかざぐるまデモ

演説和訳



©Tsukasa Yajima

デモにお集りのみなさん！

フクシマの原発事故から6年、チェルノブイリ原発事故から31年が経ち、もう誰の目にも次のことは明らかではありません：原子力発電にはもはや破綻が来ているということです：自然環境的にも、経済的にも、倫理的にも。

そうであって当然です。それなのにまだ過去に葬られていません。

それはヨーロッパでも同じです。私たちの住んでいる場所のすぐそばで、この恐ろしく危険な技術がリバイバルをしようとしています。

ちなみに、誕生してから60年以上も経ちながら、いまだに経済的でないのがこの技術です。

でも、そんなことはある一部の人間にはまったくどうでもいいことのようにです。

今週の始めになって、またもや欧州委員会に見せつけられたことがあります。

それは、高価でリスクの高い原発プロジェクトをEU圏内で許可するためなら、欧州委員会は喜んで目をつぶる、ということです。

ブリュッセルでもこれを問題視する声はたくさんあったにもかかわらず、欧州委員会は今週月曜日、パクスに新しい原子炉を建設する計画でハンガリーにいわば許可を与えたのです。

それもなんと、ロシアの資金を使って、ロシアの技術で原発が建設されるというのです。競争入札はありませんでした。建設契約のほとんどが秘密裏に行われています。

ハンガリーは原子力が欲しいのです。どれだけ費用が掛かってもいい、というわけです。

残念ながら、それはこの国だけではありません。

チェコ、スロヴァキア、ポーランドも同じように新原子炉設備に投資することを考えています。これらの国でもその資金繰りに関しても、最終処分場の問題にしてもまったく解決の糸口が見つからないにもかかわらず、です。

Brexitにもかかわらず、イギリスとフランス電力会社 EDF もいまだに問題視されているヒンクリーポイント C の原発建設計画を固守しようとしています。イギリスの納税者だけをとっても、千億ユーロ以上負担させられることになるだろう建設計画です。

これらが示しているのは、次のことです：我々の近隣諸国は原発ロビーのプレッシャーに屈服し、エネルギー政策的にはまったく意味のない、危険極まりない方法をとろうとしている、ということです。

それも、ドイツがこれからせつかく脱原発しようとしている時にです。

ハンガリー、イギリス、欧州委員会、フランス - すべて私たちのすぐ近くに在外公館があります。

今日このような機会を利用して、彼らに向かって呼び掛けたいと思います：

原発を運転する企業には、自分たちが操業してきたおんぼろの原発を分別ある判断に基づいて安全に始末するお金が

足りないらしいことが明らかなくせに、何千億ユーロもかけて新しい原発プロジェクトを計画するのはやめろ、と。  
それから、高額な補助金を原子力発電の電気に与えることにも反対だ、ということ。そういうことをするからこそ、再生可能エネルギーの推進にさらに足枷が掛けられ、あらゆる国でエネルギー政策を返還する兆しをひねりつぶすことになるのだ、ということ、です。

どうしてかは、みなさんがもうよくご存じのはずです。原子力発電の電気はヨーロッパでは国境を越えて取引されているからです。

そして原発による電気は、もしヨーロッパで今計画中の原発建設が本当に実現して操業開始されれば、これからもっと多くドイツにもたらされることになります。

連邦経済省では 2022 年以降、ドイツでは近隣諸国による電力輸入にこれまでよりもっと依存することになるだろうという将来のシナリオが計画されています。つまり、パクシュ（ハンガリー）、テメリン（チェコ）などで発電される原発の電気が輸入されることになるのです。

そんなことになれば、いくらドイツが脱原発をするといっても、ただの茶番でしかありません。

しかし、ドイツ政府がエネルギー政策変換を真剣に考えるなら、できる限りの力を尽くして、このような進展を食い止めていかなければなりません。

EU のあらゆる委員会や当事国との話し合い、政治的に食い止めていくことが必要です。

さらに、法的手段に訴えることも必要でしょう。

Greenpeace Energy ではそれで、二年前からヒンクリーポイント C 原発への補助金出資に反対して、告訴しています。

今、欧州司法裁判所でこの訴えが審議されています。

オーストリアやルクセンブルクといった国もこのイギリスの原発補助に対する訴訟に参加しています。

そして、ハンガリーのパクシュ原発に反対する法的および政治的反対運動も高まりつつあります。

ですから、ここで私たちはドイツ政府に訴えます：

ドイツも脱原発を決定した国として、欧州のこの不吉な原発リバイバル傾向にきっぱりと背を向けるべきです。

同時にドイツは、地方分散型エネルギー政策変換を推し進めていくべきです。つまり、恐ろしい原発建設はやめて、安全でクリーンで安価なエネルギーを確保するために、です。

フクシマ原発事故の記念日は、ヨーロッパにいる私たちすらにも警告しているのです。原子力エネルギーは絶対に人間の手に負えないものであるということ。それは、老朽化した原発も、新建設される原発も、変わりません。

消費者として私たちは、はっきりと問題提起していいこうではありませんか。

我々は、電線から、コンセントから、一切原発の電気は欲しくない、と！

新しい原発から出されようが、古い原発から出されようが関係ない。国境のこちら側で作られた電気であろうが、向こう側で作られた電気であろうが、関係ない。原発による電気は要らないと！

ありがとうございました。